

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 高水高等学校・同付属中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒740-0032

山口県岩国市尾津町二丁目24-18

E-mail office@takamizu.ed.jp

Website http://www.takamizu-h.ed.jp/index.php

幼児児童生徒数 男子 430名 女子 289名 合計 719名

幼児・児童・生徒の年齢 13歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

地域社会の一員として環境問題とどう立ち向かうかを考えること、また、地球規模の諸問題が国際社会の利害関係や文化的な摩擦を生むことなどを認識することを活動テーマとして、ESDの実践を通して協調・協力する態度やグローバル／ローカルな視野を育むことを目標とした。

具体的には、国際理解と環境を柱に、①課題研究と探求学習、②ユネスコスクールとの交流と研修活動、③国際問題・国際理解に関する活動などを行った。

①課題研究と探求学習

総合学習の時間を中心として、各教科・HR活動・道徳の時間等も有機的に関連性を持たせながら、中高一貫教育のメリットを活かした組織的系統的な環境学習や国際理解を通じてESDの学びを深めることを目標に活動を進めた。

中1から中3までを異学年で構成される9つのゼミに分け、約半年間かけてゼミ内での中間報告も含め、約半年間かけてそれぞれのテーマの探求学習を行った。高1と高2については、各学年に割り振られた学習プランを、総合的な学習の時間を中心におよそ4ヶ月をかけて研究した。4名程度のグループに分

かれて課題研究をし、プレゼンテーション形式で学年発表会を行った。この成果を踏まえ、2月中旬に中学と高校5学年合同で発表会（「中高合同発表会」）を開催し、保護者や関係機関、マスコミ等を招き、公開するとともに、課題研究と探求学習の成果をまとめた冊子を作製した。

②ユネスコスクールとの交流と研修活動

他校やユネスコスクール同士の連携を深め協力関係を築くことによって活動の充実と推進を図るために、参加者を募って様々な活動に参加した。4月には「ユネスコみらいミーティング in 大分 2017」に12名が参加し、6月には当校のユネスコ部（26名）が主幹となり「SPACE（高校生討論会）」を企画・運営し、岩国市内の高校3校と開催した。また、8月には、平和と地域社会との協同をテーマに、当校が主幹校となり、地域住民団体「Seeds」と共催し、山口県内外のユネスコスクール3校と「ユネスコスクール交流研修会 in 山口 2017」を開催した（15名が参加）。

③国際問題・国際理解に関する活動

グローバル人材の育成を目標に、「全日本高校模擬国連大会」への出場を目指し、参加者を募っている。前年度の3月から、中1から高1までの希望者を対象に、校内での模擬国連研修会を開催し、7月の校内選考を経て、大会への応募者を決定する。2017年の第11回大会には、高校1年生3名、高校2年生1名、計4名（2チーム）が選拔出場を果たした。また、「国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール」への参加も呼びかけており、2017年の第61回大会には、山口県代表として高校2年生1名が選拔出場した。



① 課題研究と探求学習の様子



① 第6回中六合同発表会



② 第3回ユネスコスクール交流研修会



③ 第11回全日本高校模擬国連大会

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

教育課程そのものの編成には至っていないが、総合学習の時間を中心に、各教科・HR活動・道徳の時間等も有機的に関連性を持たせながら、中高一貫教育のメリットを活かした組織的かつ系統的な活動として位置付けている。社会科や英語など関連性の深い教科にもその学習活動を取り入れてきたが、内容面を充実させることや社会科学分野への偏りを是正することが課題となってきた。そこで、今年度は、中学校の総合学習のあり方を見直し、特定の教科に関係なく、教科横断的な探求学習の要素を取り入れ、アクティブラーニングの導入を促しながら、そのノウハウを教員間で共有できるように取り計らった。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ユネスコスクール委員会を設置し、担当教員を配置した上で、各学年・クラスと速やかに連携が取れるような体制をつくっている。ESDパスポートの運用にあたっては、各クラスの担任を窓口にし、各教員で分担できるように努めている。また、課外活動においても、ユネスコ部中心となってきた活動を、生徒会活動とも連携させながら、教員間で共通理解ができるように取り計らっている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

ユネスコスクールとしての活動が多岐にわたるため、現在、その評価の方向については模索中である。ただし、総合学習の研究発表会については、保護者並びに地域の方々に公開し、生徒、教員、保護者へのアンケート等を通じた評価をお願いし、研究成果の確認と次年度への課題を導く工夫を行っている。また、ボランティア活動については、生徒と保護者の学校アンケートに評価項目を設けているが、参加率が低く、ESDパスポートの活用のあり方が課題となっている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

一部の活動についてであるが、「ユネスコみらいミーティング」や「ユネスコスクール交流研修会」では、参加校同士で活動成果を共有し合い、次年度に向けたフィードバックをはかっている。また、全国規模のユネスコ活動(ユネスコ子どもキャンプなど)に参加した生徒には、地域のユネスコ協会が開催する行事や発行する会報等で報告の機会を設けるなど、活動成果を発信するように努めている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

地元の岩国ユネスコ協会や岩国市教育委員会をはじめ、地域活性化を進める住民グループ(Seeds)や国際ソロプチミスト岩国などの団体と連携を取りながら、各団体の開催する行事や研修会やボランティア活動をユネスコスクールの活動の一環として行っている。特に、Seeds とは長年にわたって里山再生活動を協同して進めており、8月に行った「ユネスコスクール交流研修会」では、これまでの成果を活かした共催のもとで、本校主幹で企画・運営を行うことができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

他校やユネスコスクール同士の連携を深め協力関係を築くことによって活動の充実と推進を図るために、一昨年からは広島県・岡山県のユネスコスクール3校と「ユネスコスクール交流研修会」を始め、毎年、持ち回りで主幹し開催し、中国地方のユネスコスクールを中心に参加を呼びかけている。また、愛媛・大分・山口のユネスコ青年部が開催する「ユネスコみらいミーティング」には、国内のユネスコスクールの交流とネットワークの形成も見据えて毎年参加している。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

総合的な学習での学習内容を、毎年2月に合同発表会という形で成果発表の場を設定しているが、回を重ねる毎に発表内容やプレゼンテーション能力が向上している。アクティブラーニングの積極的な活用とも連動し、発表会までの指導のプロセスが少しずつ組織的かつ継続的になってきた。また、他校との交流行事などを主幹することにより、生徒、教員ともに企画・運営のノウハウが習得でき、蓄積されてきた。こうした成果を生徒間や教員間でさらに共有していくことが今後の課題となっている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

国際理解と環境を柱に、①課題研究と探求学習、②ユネスコスクールとの交流と研修活動、③国際問題・国際理解に関する活動を中心に行っていく予定である。①については、今年度の成果を踏まえ、中高一貫教育のメリットを活かしながら、総合学習のあり方を見直しながら進めていく予定である。②については、全国規模のユネスコ活動への参加に加え、特に「ユネスコスクール交流研修会」の充実をはかるためにネットワークの拡大を目指していく予定である。③については、模擬国連活動を中心に、校外大会への参加にとどまらず、校内での活動を組織的かつ継続的に行っていくための取り組みを充実させていきたいと考えている。その他には、地域の学校外の団体との連携を維持しながら、様々な活動を充実させるとともに、ESDパスポートの活用のあり方を見直しながら、ボランティア活動を活性化させていきたいと考えている。